

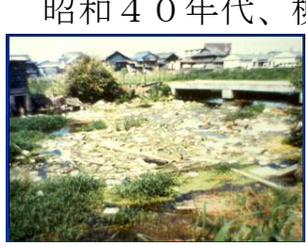
伝記「広松伝のしごと」展



昭和50年代に柳川の掘割を救った男がいた。
男の名前は広松伝（ひろまつたえ）と言った。
人々は、その生一本の魅力的性格から、親しみを込めて「でんさん」と呼んだ。これは、「郷土の川や堀に清流を取り戻したい」との願いを独自の流儀で叶えた男の物語である。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ 1 柳川の川や堀をなくさないで

広松伝は、柳川市蒲生で生まれ堀と共に育った。泳ぎも魚釣りも得意でした。蒲池の堀を隅々まで知っていました。



昭和40年代、柳川の掘割は荒廃が進み喘いでいました。そこで、川下りコースを除き、市街地の水路を埋め立てコンクリートで蓋をした下水路にする計画が持ち上がりました。

昭和52年、柳川市役所に勤務していた広松は、「掘割」の埋立て計画を進める都市下水路係長となります。

しかし、広松は「掘割をなくしてはならない」と市長に直談判し、開発に待ったをかけた。広松は、水流もなく汚れ果てた郷土の川や堀に清流を取り戻そうと「河川浄化計画」を作成しました。それは、議会や市役所内はもちろん、市民に向けて「柳川の川や堀のよさ」を伝えることでした。それには、柳川の掘割がなんのためにつくられたのか、どのような役割をはたしているのかを正しく理解されなければならない、と広松は考えました。しかし、荒廃した堀や川を浄化することは、並大抵の仕事ではなかったはずでした。

2 広松の「しごとの流儀」

広松は、2年間で住民と100回以上もひざ詰めの懇談会を開き、掘割が清流をたたえていたころの思い出を語り合い、住民参加の掘割浄化を訴えました。



そして、自らは率先して堀に入って水草を取ったり、浚渫の先頭に立ったりしました。このことが、住民を巻き込み、「自分たちが汚したものは、自分たちの手で

☆ ☆ ☆ ☆ ☆
きれいに」のスローガンのもとに、住民の力を結集し、行政と市民が協働する新しい取り組みがスタートすることになったのです。この間の経緯は、新聞や後に



宮崎駿制作・高畑勲監督の映画『柳川掘割物語』（二馬力）で全国に紹介されました。この映画は、もう一つの役割を果たしました。それは、各地の地方公共団体の職員研修に使われた。行政マンとしての郷土に寄せる熱意と住民を巻き込んだ仕事の流儀が、行政の人々にも不可欠な生き方として共感されたからです。また、環境浄化を実践する市民レベルでの取り組みのよき先行事例となりました。

3 河川浄化計画

広松の「河川浄化計画」では、①住民参加で堀を「浚渫する」、②「汚水の流入を抑止する」、③堀を継続的保全する「住民参加による維持管理」の3つを提案しています。広松は、「堀がなくなれば柳川は沈没する」と諭しました。また、子どもたちへの教育啓発にも力を尽くした。



さらに、広松は、下流の柳川だけにとどまらず、上流や中流の矢部川流域にも目を向け、そこにある歴史、文化、産物の交流による住む人々同士の交流へと広げました。柳川の上流にある矢部村や星野村での柳川市民の森づくりにもまで発展しました。

【展示協力】
広松美代子 柳川水の会
株式会社スタジオジブリ
(敬称略・順不同)



【お問い合わせ先】
柳川市沖端町 51-1 Tel (0944) 73-8940

